年間のまとめと提言

平成２９年３月２１日

地方創生にいみカレッジ「鳴滝塾」

【はじめに】地方創生にいみカレッジ「鳴滝塾」は、平成２７年９月に新見市が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、同年１２月に新見公立大学内に設立されました。地域の課題解決を探求する産官学民の連携組織として、新見市と大学の持続可能な未来の構築を目指して、地方創生に資する取り組みを進めています。

平成２８年１月に設立総会を開き、併せて特別講演会とパネルディスカッションを行いました。２月に塾員の地方創生に対する思いを聞き、３月に特別講演会とパネルディスカッションを催して、平成２８年度の方向性を見いだしました。すなわち「新見の宝」の再発見、再認識、再評価を通じて、「新見の宝」を生かした町づくり、産業おこしを考え、実現できる方策を明らかにしようと取り組みました。

４月以降、毎月の定例塾と併せてワークショップを随時開き、現状と課題を具体的に考えてきました。平成２９年３月までに定例塾を１５回、ワークショップを２７回開きました。そして、３月の総会で新見市へ「年間のまとめと提言」を提出する運びになりました。

提言は自然、文化、産業、教育の分野から１件ずつ取り上げ、今後検討すべき事項や要望などは付記として列挙しました。

【現状と課題→提言】

（１）自然

鳴滝（新見市菅生別所）は、赤い着物の仙人が赤い牛を洗っていたという「牛仙（ぎゅうせん）伝説」がある神秘的な滝で、近くに「七曲（ななまが）り」と呼ばれる明治期建設の林道がある。滝は雄滝（おんだき）、雌滝（めんだき）の２つから成り、七曲がりは石垣が建設当時のまま残っている。別所アウトドアスポーツセンターから車でトイレ付き駐車場へ。そこから滝までの約 200 mの遊歩道は、雨の日はぬかるみ、晴れていても道がえぐれていて足もとがわるい。また、「新見癒やしの名勝遺産」などの看板は朽ちていて、みすぼらしい。いかにも見捨てられた観光地のようだ。自然環境を維持しつつ、遊歩道など鳴滝周辺の観光整備が望まれる。

＊「千屋ダム湖畔⇔別所アウトドアスポーツセンター⇔鳴滝」を結ぶ観光ルート。

＊遊歩道は市から委託されて年１回６月に地元住民が草刈りを行っている。ところが、地元住民は「倒木や道にかぶさった枝木は素人では除去が困難なので、草刈り前の５月までに市によって撤去してほしい。また、砕石を撒くなど遊歩道をなめらかにしてほしい」という。

えぐれた道と倒れた木（2016.6.29）

＊将来的に、雑草対策として間伐材利用の「ウッドチップ舗装」を提案→新見市内でウッドチップを開発、生産することを視野に、ウッドチップ舗装を市内の各施設に普及させる。

＊鳴滝塾では、本年夏から秋にかけて市民ボランティアによる遊歩道の草刈りを計

画している。現地は県備作山地県立自然公園特別地域（国有林、市道）。

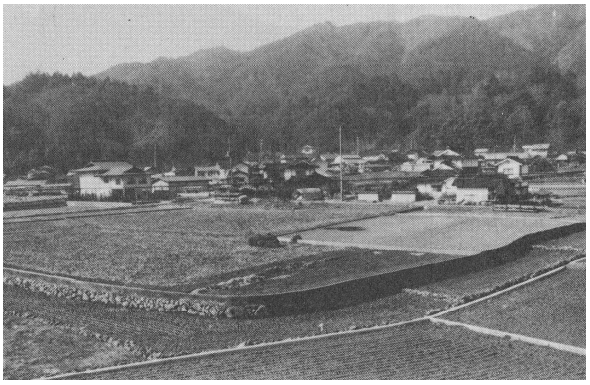
（２）文化

東寺の荘園「備中国新見庄」。東寺と新見庄との間で交わされた大量の文書は、ユネスコ世界記憶遺産「東寺百合文書」（国宝）に含まれている。なかでも鎌倉時代の土地台帳に記された地名の多くは現在の新見市で使われており、現地に現存する石造物、木像などと合わせて中世の新見のようすを窺うことができる。また、「東寺百合文書」に残る「たまがき書状」は、中世農民女性の筆として希有の文書で、美しく切ない筆致が限りなくロマンを漂わせている。今なお東寺と新見市とのつながりは深く、「新見庄」を学習と観光の場として全国に脚光を浴びせたい。そのためには学習・観光ルートの設定と史跡の整備が必要。

＊学習・観光ルートでは、善成寺公園（直務代官の葬儀が営まれた善成寺の跡地に近い新見公立大学グラウンドに隣接し、鎌倉時代作と推定される阿弥陀如来座像が安置されている）⇔江原八幡宮（土一揆集結の場）⇔たまがき碑（碑は昭和５４年の建立だが、付近の田んぼや石垣は中世の面影を残している）が、JR 新見駅に近く、しかも新見庄のエキス（たまがきと土一揆）を含んでいるので、学習・観光に「たまがきロード」として馴染まれるのではないだろうか。案内板などの整備が急がれる。

＊「たまがきロード」にしても新見御殿町にしても、散策に適しているが、大型バスが駐まるスペースがない。市外からまとまった人数を迎えることができないでいる。

＊史跡の整備では、上市の地頭方政所跡**＝写真＝**が急務である。付近の開発が進んでおり、このまま民間の田んぼであるなら、いずれ開発にさらされるだろう。石垣と田んぼの中の大岩は中世の遺構であり、新見市が買い上げて整備保存すべきである。



＊高梁市の備中松山城は登城すれば一目瞭然だが、新見市の新見庄や御殿町はシンボルが現地に現存せず、説明しなければ理解を得られない。新見の歴史（文化史と産業史）を展望できる歴史資料館がほしい。

＊新見庄について書かれた出版物は多い。それらの本を新見市立図書館で一堂に集めて、閲覧に供してほしい。新見に行けば、新見庄に関する書物はそろっていると言われるようにしたい。

＊新見庄で盛んだった「たたら製鉄」を現代に蘇らせている備中国新見庄たたら伝承会。「中世たたら製鉄操業」は、来年２０回目を迎える。これまで生産された「鉄」を製品化することはできないだろうか。「お守り刀」などの短刀に、あるいは根付などアクセサリーに加工することが考えられる。

＊新見庄をはじめ新見の歴史・文化・産業・自然を全国へピーアールするには、卒業後全国に散らばる新見公立大学の学生に新見について知ってもらい、新見を好きになってもらうことが肝要だ。

（３）産業

新見市のＡ級グルメ「千屋牛」は、日本最古の蔓牛の血統「竹の谷蔓牛」を受け継ぎ、

和牛ブランドの松坂・近江・神戸牛のルーツといわれながら、肥育頭数は平成２７年で１，５９４頭と少なく、全国的には出回っていない。良いものでも多く生産できなければ、「幻の和牛」のまま消える。千屋牛の大幅な増頭と、千屋牛の特徴を明らかにしてブランド力を高めることが望まれる。

千屋牛の祖「竹の谷蔓牛」は現在も細々と維持されており、千屋牛本来の形質を色濃く有している可能性が大きい。千屋牛の振興に寄与しようと昭和５３年に開設された岡山大学農学部津高牧場では、竹の谷蔓系和牛と他の和牛を遺伝子レベルで比較解析をするとともに、牛肉成分分析による新しい和牛評価指標を確立するための研究が実施されている。今後、希少系統の「竹の谷蔓牛」の遺伝子解析に基づく、時代を先取りした千屋牛の育種改良による“スーパー千屋牛”の生産、ならびに新評価指標を基盤とする「千屋牛」の地理的表示保護制度（ＧＩ）でのブランド化が大いに期待される。

新見市は、岡山大学との連携協定を早急に実現し、育種改良情報と生体情報を統合した新たな和牛肉生産システムの創出を視野に、放牧による省力化を組み入れた千屋牛の増頭に関する具体策を岡山大学との連携のもとに計画協議し、千屋牛振興に取り組むよう提言する。

（４）教育

小中学生を対象に「塩から子育成事業」を行っている新見市。他方、０歳からの乳幼児の発達と学びが重要で、主体性の育ちは集団のかかわりの中で生まれる。人口３万人の新見市は地域ぐるみで子育てをしやすい環境にあり、新見公立大学を核として市内の保育所、幼稚園、認定こども園と連携した「教育支援センター」をつくり、新見ならでは「地域ではぐくむ子育て環境」を整える必要がある。将来的に新見公立大学の保育実習において、学生は実践的学びを深め、実習先の現場では保育の質が高まるという相乗効果が期待できる。

次に、「新見の宝」としての新見公立大学「学生」（現在在籍者数４６２人）。全国から大学生が新見に集っていることで、どれだけ新見市が経済的、文化的に潤っているか。ただ、アパート代を含む生活費が高いなど、学生目線か

らすれば、十分に学生を大切にしているとは言い難い。先般、新見商工会議所青年部が学生の声（要望）を新見市長に届けるなど、学生が過ごしやすいまちづくりをしようという意識が市民に高まりつつある。そこで、新見市は条例などで「学生応援団のまち」を宣言し、市民挙げて学生の応援団になるよう提言する。

【付記－今後検討すべき事項や要望】

＊新見に残っている古い建物の保存活用はできないだろうか。多くの古い建物は悲鳴を上げており、早い対応が必要。空き家をどうしたらよいか。 「共有」と「交流」のシェアハウスは可能か。

＊もっと県内外にアピールして新見のよいところを発信しつづけないと、どんどん人口が減って、高齢化も進んでいく。

＊若い人が地域資源を生かして起業できる環境を。

＊民家の窓辺や壁などがハンギングフラワーで飾られたフラワーロードが新見市中心部や各地にできると、町全体が「花の庭」としてショーアップされ、新見を訪れる人々の目を引くだろう。「花のまち新見」を提案。

＊新見市の豊富な山林資源を無駄なく使うにはどうするか。バイオマス発電、ウッドチップ製造などが考えられる。また、曲がった木を使って商品化するなど、一見価値のないものに価値をつけることも考えてみる必要がある。

＊国道１８０号を上っていくと、きれいな景色がたくさんあるのに、車を止めてお弁当を食べたりする場所が少ない。また、１８０号は追い越し車線が一部分しかなく不便。改善してほしい。

＊子供たちが自然の中で遊ぶことのできる「プレーパーク」があればよい。

＊自らの健康をコントロールし改善していく「ヘルスプロモーション意識」を若い世代から年配まで浸透させることが重要。

＊山間部は１軒１軒が遠く、１人暮らしが増えている。このため、コミュニケーションから漏れてしまう人もある。少々遠くても隣近所で声かけを活発にして、見守り機能を強化させる必要がある。また、地区で話し合う機会を増やし、コミュニケーションの充実をはかることも大切だ。

＊０、１歳児の待機児童が多く、困っている人がある。また、新見での子育てを考えると、何かあったときに対応できるだけの医療環境にあるかどうか不安になる。

＊すでに「里帰り出産」はあるのだから、新見での「里帰り育児」が流行（はや）るような育児環境を整えることはできないだろうか。

＊夜間や緊急時、休日の医療に不安がある。往診してくれる医師がいなく、在宅医療、在宅介護ができないでいる。

＊移住者に休耕田を使ってもらうための「フォローアップ」できた町づくり。

＊新見市は県下で最もダムが多い市町村なので、石灰工場・鉱山など地場産業だけでなくダムを含めてめぐるツアーの実施。観光資源としてのダム。人気のダムカード。

＊「自然美」もさることながら「食」が人を呼ぶ。井倉洞、満奇洞など観光地で、人がうなるほどのおいしい料理を提供する店（十割蕎麦など）がほしい。

＊婦人たちが、いつでも気楽に集えるカフェルーム（有料喫茶）がほしい。

＊ JR 新見駅から高梁川右岸の河川上に、下(しも)はまなび広場にいみまで、上(かみ)はげんき広場にいみまで、歩行者専用道を架ける。それぞれ「まなびロード」、「げんきロード」として活用してもらう。

＊ JR 新見駅で時間待ちの１時間、タクシーで回れる観光コースの設定を。また、タクシーの 3,000 円コース、5,000 円コースも設定してほしい。JR 新見駅周辺は６個所で「ポケモン GO」が出るといわれている。

＊今ある観光パンフレットは通り一遍で、A 級グルメ提供店を掲載するなど工夫を凝らしてほしい。市内各地のイベント一覧マップも必要。

＊ JR 新見駅前に物産店や休憩施設を。駅前で土産に新見の特産物を買う所がない。駅前のたまがきと祐清の像を見て、理解できる人は少ないだろう。観光案内板も目立たない。

＊公民館長などに、定年退職者ではなく、若い人を登用してほしい。

＊県の「エコツアーキーパーソン養成研修」に参加したが、新見市からの参加は民間の２人だけだった。よそは市の職員も参加していた。せっかくの研修機会なので、新見市の職員も参加するよう要望する。

以上